



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ヤマザワ

コード番号 9993 URL <https://yamazawa.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古山 利昭

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 工藤 和久 TEL 023-631-2211

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無： 無

決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の連結業績（2024年3月1日～2024年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	75,885	△0.0	△1,036	-	△652	-	△1,351	-
2024年2月期第3四半期	75,922	2.8	441	△32.6	484	△33.2	926	142.3

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 △1,368百万円 (-%) 2024年2月期第3四半期 942百万円 (128.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	△125.38	-
2024年2月期第3四半期	85.98	85.93

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第3四半期	58,601	27,206	46.4
2024年2月期	58,186	28,859	49.6

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 27,195百万円 2024年2月期 28,849百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	-	13.50	-	13.50	27.00
2025年2月期	-	13.50	-	-	-
2025年2月期(予想)	-	-	-	13.50	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	101,500	△0.4	△800	-	△500	-	△1,700	-	△157.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年2月期3Q	10,960,825株	2024年2月期	10,960,825株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	178,391株	2024年2月期	185,247株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年2月期3Q	10,779,509株	2024年2月期3Q	10,772,675株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化や雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復の動きがみられた一方、円安の継続による原材料価格の上昇、長期化するロシア・ウクライナ情勢や中東情勢の緊迫化等の不安定な国際情勢による景気への影響が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが主に属する食品小売業界におきましては、経済活動の正常化による人流増加に加え、インバウンドの回復も追い風となる一方、原材料価格や光熱費、人件費の上昇に加えて、継続的な物価上昇による消費者の節約志向が強まるなど、企業運営を取り巻く環境は厳しさを増しております。

このような状況の中、当社グループにおきましては第3次中期経営計画の最終年度を迎えております。顧客の創造、新たな生産性の獲得、収益構造改革を重点課題とし、風土改革、サステナビリティ、人材の育成を組織の基盤整備に掲げ、経営課題解決に向けての戦略推進により強い企業成長を目指してまいります。また、グループ経営理念であります「ヤマザワグループは、お客様に安心と豊かさを提供し、地域の健康元気を応援するとともに、従業員一人一人が輝く企業を目指します」を基軸に、「地域に愛される、健康元気な100年企業を目指す」というグループビジョンを達成するために、『チャレンジ100 ～100年企業に向けてスピードアップ～』をスローガンに掲げ、全社一丸となって各施策の実行及び検証を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は758億85百万円（前年同期比0.0%減）となりました。利益面では、人件費の単価やエネルギー価格等の上昇が予想を上回ったことや、原材料高騰による価格転嫁がスムーズに行えなかったことでの荒利益高不足等の影響により、営業損失は10億36百万円（前年同期は4億41百万円の営業利益）、経常損失は6億52百万円（前年同期は4億84百万円の経常利益）となりました。また、2025年2月期中間期における繰延税金資産の一部取り崩しにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は13億51百万円（前年同期は9億26百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

スーパーマーケット事業におきましては、第3次中期経営計画の重点課題であります、顧客の創造、新たな生産性の獲得、サステナビリティの諸施策に取り組んでまいりました。

顧客の創造におきましては、お客様の来店動機や購買動機を高めるために、同質化競争から脱却し、当社の独自性を追求するとともに「ヤマザワブランドづくり」に注力してまいりました。美味しさ、健康、産地、便利の4つをコンセプトとし、商品そのものの品質の追求と、付加価値を生む売り方を訴求してまいりました。具体的には「健康」をテーマにした、塩分控えめながらも、だしの旨みに着目し美味しさを追求した「だしが旨い」「だしが香る」シリーズの商品開発・拡大や、農林水産省推奨の野菜摂取運動と連動した野菜350g運動と題したチラシ企画や売場づくり、また即食できるフレッシュサラダコーナーの売場拡大、既存商品の野菜を増量した商品開発等の取り組みを行っております。お客様の利便性向上に向けた取り組みといたしましては、弊社HP内のギフト専用のネットショッピングサイトにおいて地元が産地である特産品の拡充を図り、今後も規模を拡大してまいります。また、店舗へのご来店が困難なおお客様の利便性向上を目的とし、販売パートナー（個人事業主）が商品を車に積み込み、依頼されたお客様のご自宅まで伺い、お買物をさせていただくサービスである、移動スーパー「とくし丸」事業も引き続きご好評を得ており、山形県内14台、宮城県内3台、秋田県内におきまして9台の合計26台が稼働しております。引き続きエリアを拡大して運行を随時増やしていく予定です。さらに店舗運営につきましては、2024年3月より株式会社ヤマザワと、株式会社ヤマザワ薬品が運営するドラッグストア「ドラッグヤマザワ」において、これまで導入していた自社ポイントカード「にこかカード」のサービスを終了し、「楽天ポイントカード」と「楽天Edy」機能を搭載した「ヤマザワEdy - 楽天ポイントカード」への切り替えを行っております。「楽天ポイントカード」「楽天Edy」の導入によりデータマーケティングの活用、販促施策の更なる強化を図ってまいります。また、会員数1億以上の強固な顧客基盤を持つ楽天グループとの連携を深め、新規お客様を中心とした利用者全体の拡大と売上の伸長、お客様全体へのサービス向上を目指してまいります。

新たな生産性の獲得におきましては、従来以上に効率的に業務を遂行するために、ローコストオペレーション（DX推進）に努めてまいりました。具体的には、AI自動発注システムの拡大やセルフレジの増設を実施しております。

サステナビリティ経営におきましては、当社グループのサステナビリティ基本方針に則り、企業価値創造と持続可能な社会を実現する上で重要と考える事項を、マテリアリティ（重要課題）として特定しました。特定したマテリアリティごとに各課題の解決に向けた具体策の策定と推進に取り組んでまいります。

更に、当社グループではグループ経営理念の下、食を通じ持続可能な社会を実現するために、『ヤマザワSDGs宣言』を表明し、持続可能で豊かな社会の実現に向けた経営を推進しております。環境活動への取り組みといたしましては、脱炭素に向け、気候変動対策の一つである再生可能エネルギーを利用した太陽光パネルによる発電を2024

年8月までに9店舗で導入しており、2025年3月までに新たに6店舗への導入を計画しております。また、働きやすい職場環境づくり実現のための健康経営の取組みが評価され、経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人2024」（大規模法人部門）に認定されました。今後も経営理念・グループビジョンに基づき、地域とのつながりを大切に持続可能で豊かな社会の実現に貢献してまいります。

既存店の活性化といたしましては、2024年3月に「多賀城店」（宮城県多賀城市）、同年4月に「富の中店」（山形県山形市）、同年5月に「田子店」（宮城県仙台市）、同年6月に「住吉台店」（宮城県仙台市）、同年7月に「長井店」（山形県長井市）、同年10月に「白山店」（山形県山形市）の改装を実施いたしました。また、同年8月に「大曲中央店」（秋田県大仙市）を閉店いたしております。

以上によりまして店舗数が、山形県内44店舗、宮城県内19店舗、秋田県内7店舗となり、スーパーマーケット事業の合計店舗数は70店舗となっております。

この結果、スーパーマーケット事業の売上高は663億2百万円（前年同期比0.2%増）となりました。

ドラッグストア事業におきましては、「地域の皆様が健康でより楽しく、より便利に、より豊かに、生き活きと生活できる商品と情報を提供し、『生活の質』の向上を実現する」を基本理念に、デジタルの推進と販売力の強化に取り組むとともに、働きやすい職場環境の実現を推進し、全社一丸となって地域の人々の「生活の質」の向上の実現に向けて取り組んでまいりました。また、2024年3月に「ドラッグ上山金生店」（山形県上市市）を新規開店いたしました。

しかしながら全国的な健康被害に端を発したヘルスケア商品の伸び悩みや天候不順による化粧品への影響などもあり、この結果、ドラッグストア事業の売上高は95億78百万円（前年同期比1.5%減）となりました。

その他事業におきましては、惣菜及び日配商品を開発製造して当社グループへ納品しており、スーパーマーケット事業との連携を密にし、安全・安心で美味しいオリジナル商品の開発を行ってまいりました。2023年11月には「サンコー食品 新惣菜工場デリカセンター」（山形県山形市、以下「新デリカセンター」）の稼働を開始いたしました。新デリカセンターの稼働に伴い、商品開発・生産能力の増強、店舗への供給量の拡大に加え、最新設備の導入と徹底した衛生管理による味・品質・鮮度の向上、そして働きやすい環境づくりを実現しております。

この結果、その他事業の内部売上高は前年同期と比べ5億14百万円増加しましたが、製造された商品は主にスーパーマーケット事業で販売されており内部取引の消去により相殺されているため、その他事業の売上高は4百万円（前年同期比34.2%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4億14百万円増加し、586億1百万円となりました。これは主に、商品及び製品が増加したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ20億68百万円増加し、313億94百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が増加したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ16億53百万円減少し、272億6百万円となりました。なお、自己資本比率は46.4%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の連結業績予想につきましては、2024年10月10日の「繰延税金資産の取り崩し並びに2025年2月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績の差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました内容から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,033	6,488
受取手形及び売掛金	788	881
商品及び製品	4,376	5,202
仕掛品	0	0
原材料及び貯蔵品	126	97
その他	2,774	2,978
流動資産合計	14,099	15,649
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,679	19,788
土地	12,684	12,685
その他(純額)	4,293	4,517
有形固定資産合計	37,658	36,991
無形固定資産	1,921	1,941
投資その他の資産		
その他	4,507	4,018
投資その他の資産合計	4,507	4,018
固定資産合計	44,086	42,951
資産合計	58,186	58,601
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,766	9,043
短期借入金	8,000	7,000
1年内返済予定の長期借入金	447	522
未払法人税等	97	92
賞与引当金	319	-
契約負債	727	519
その他	4,028	5,470
流動負債合計	20,386	22,647
固定負債		
長期借入金	4,206	3,737
退職給付に係る負債	174	193
資産除去債務	1,287	1,287
リース債務	2,474	2,757
その他	795	771
固定負債合計	8,939	8,747
負債合計	29,326	31,394

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,388	2,388
資本剰余金	2,210	2,207
利益剰余金	24,368	22,725
自己株式	△235	△227
株主資本合計	28,731	27,094
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	98	85
退職給付に係る調整累計額	19	15
その他の包括利益累計額合計	117	101
新株予約権	10	10
純資産合計	28,859	27,206
負債純資産合計	58,186	58,601

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
売上高	75,922	75,885
売上原価	55,070	55,052
売上総利益	20,851	20,832
販売費及び一般管理費		
給料	8,382	8,634
賞与引当金繰入額	604	542
退職給付費用	91	86
減価償却費	2,297	2,334
その他	9,032	10,271
販売費及び一般管理費合計	20,409	21,869
営業利益又は営業損失 (△)	441	△1,036
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	7	9
データ提供料	18	19
補助金収入	-	150
電子マネー退蔵益	-	179
その他	58	110
営業外収益合計	88	471
営業外費用		
支払利息	28	40
違約金	11	-
損害賠償金	-	30
その他	6	16
営業外費用合計	45	87
経常利益又は経常損失 (△)	484	△652
特別利益		
固定資産売却益	47	0
特別利益合計	47	0
特別損失		
固定資産除却損	41	28
特別損失合計	41	28
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 (△)	490	△680
法人税、住民税及び事業税	110	49
法人税等調整額	△546	621
法人税等合計	△435	670
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	926	△1,351
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 (△)	926	△1,351

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	926	△1,351
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	△13
退職給付に係る調整額	△2	△3
その他の包括利益合計	16	△16
四半期包括利益	942	△1,368
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	942	△1,368
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	2,377百万円	2,615百万円
のれんの償却額	8	6

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット 事業	ドラッグ ストア 事業	計				
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	66,193	9,721	75,914	7	75,922	—	75,922
外部顧客への売上高	66,193	9,721	75,914	7	75,922	—	75,922
セグメント間の内部 売上高又は振替高	446	0	446	3,239	3,685	△3,685	—
計	66,639	9,721	76,360	3,246	79,607	△3,685	75,922
セグメント利益又は 損失(△)	419	50	470	△36	434	7	441

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、惣菜及び日配商品を開発製造し、製造された商品は主にスーパーマーケット事業で販売しております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、内部取引の消去7百万円によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を図っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット 事業	ドラッグ ストア 事業	計				
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	66,302	9,578	75,880	4	75,885	—	75,885
外部顧客への売上高	66,302	9,578	75,880	4	75,885	—	75,885
セグメント間の内部 売上高又は振替高	438	0	439	3,753	4,192	△4,192	—
計	66,741	9,578	76,319	3,758	80,078	△4,192	75,885
セグメント損失(△)	△642	△127	△769	△273	△1,043	6	△1,036

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、惣菜及び日配商品を開発製造し、製造された商品は主にスーパーマーケット事業で販売しております。

2. セグメント損失(△)の調整額は、内部取引の消去6百万円によるものです。

3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を図っております。